

## 第6回 武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会会議録

日時：令和元年5月30日（木）

14：00～15：20

場所：4階会議室

### <出席委員>

久保（武雄市商工会）、江口（武雄市観光協会）、五十嵐（佐賀大学）、木下（武雄金融協会）、武富（連合佐賀）、小杉（ケーブルワン）、永松（市民団体）、庭木（女性ネットワーク）、嶺井（武雄公共職業安定所）、北原（佐賀県さが創生推進課）、北川副市長

※欠席：梶川（武雄商工会議所）、石丸（武雄青年会議所）、下平（佐賀県農業協同組合）、川原（区長会代表）、江越（眉山の森保全の会）

### <事務局>

企画政策課（松尾課長、中村係長、永尾）

### <その他事業説明>

シティプロモーション室（古賀係長）

#### 1 開会【松尾課長】

本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

社会人口が8年ぶり増加し、ある程度の成果が出ているのではないかと。さらに推進できるよこの懇話会でご意見をいただきたい。

#### 2 会長あいさつ【北川副市長】

今年度が最終年度。これまでの取り組みの成果や課題を整理し、来年度以降の更なる展開に向けた検討を進めていきたい。

本日は、KPIの進捗報告を行い、評価・検証を行う。皆様方の忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

#### 3 議題

(1) 武雄市総合戦略のKPI進捗報告及び検証について<企画政策課説明>

(2) 地方創生関連事業について

・佐賀県スイッチ交付金を活用した取り組みについて報告

「武雄ブランド構築事業」<シティプロモーション室説明>

○質問 ●提言・意見

(小杉委員)

○病児・病後児保育施設テトテは、開所時間の変更があるが、利用者の要望によるものか？

A 利用者からの意見に応えたものである。

○放課後児童クラブにおける、発達段階に応じた育成支援とは具体的にどのようなことか？

A 学年、性別、障がい、ADHD（不注意、多動性、衝動性）など様々であるが、  
例えば、高学年女子に対しては女性職員が対応するなど。

○週3回朝食を抜く人の数、同じ世代で調べているのか？

A 特定検診の間診により集計したものであり、同世代のデータとなる。

○ベジファーストの啓発について取組んでいるようだが、食生活以外の健康についての取り組みも行っているのか？

A 健康ポイント事業を今年度からこつこつポイントと名称を変え、更に取り組みやすいものとした。  
その他、身体活動・運動、飲酒、喫煙等についての啓蒙活動など。

※健康ポイント事業・・・「健康で長生き」をテーマとして、検診の受診や地域行事への参加、  
体操、禁煙などの取組（健康にプラスになる活動なら何でも OK）  
によりポイントがたまる制度。

○観光客、観光消費額は、日帰りなのか宿泊なのか、どこが増えているのか？

A 日帰り及び宿泊両方を合わせた集計となっている。

内訳\_日帰り 68 億 6349 万円、宿泊 44 億 8024 万円

○オルレ等により韓国の方の入込みは増えているようだが、その他どこの国から？

A 韓国約 51%、中国約 19%、台湾約 18%、香港約 7%となっている。

(北原委員)

○創業について、相談件数はあるが実際の起業に繋がっていない。

原因の分析はできているか？どのような策を考えているか？

A 現状原因の分析は出来ていない。

今後、武雄市地域雇用創造協議会を活用し、商工団体等と一体となって、諸々の課題を整理し、  
起業・創業の成果実現に向けて積極的に取組んでいく。

○里山資源の発掘について、具体的には何か？助成事業等があるのか？

A 榊・檜等の苗木を育成し、栽培希望者へ配布している。助成事業制度はない。

その他、ジンジャーシロップ、ぼたん油の商品化。ワラビ、ヨモギの試験栽培。

○タクシー・バス利用券について、バスとタクシーは同じ額か？

A バス、タクシー共通の券を、高齢者を対象に一万円分交付した。(200 円×50 枚)

### (五十嵐委員)

- 人口 49,000 人維持、市民所得 10%UP の総括目標について、現在の所得の状況は？
- A 平成 27 年度データで 2,292,000 円、基準値に対して約 5.2%上昇している。
- 「それ、武雄が始めます。」は、他の自治体がやらない新規性なものに武雄市が取り組むものと捉えていたが、そうではなく市民等が個人的にチャレンジするなどのコンセプトと理解してよいのか？
- A 「武雄」の部分は武雄市役所ではなく、市民個人などに置き換えて活用していく。
- 創業について、ベンチャー企業はないのか？
- A 実績なし。⇒まさに「それ、武雄が始めます。」につながると良いと思う。
- コミュニティバスの利用者数が減っているが、便利であれば利用者数が増えるはずである。免許返納などが進むことによりニーズはあるはずで、これからも増えていくはずである。バス交通、コミュニティバスなどモビリティは多様化している。今後の公共交通ビジョンはどのように考えているか？
- A 今年度、地域交通対策室を立ち上げた。地域公共交通網計画を策定する。その中でニーズ調査等の結果を反映させていく。

### (木下委員)

- 外国人観光客増えている。日帰りが多いようである。ビジネスホテルの稼働率は非常に好調だが、旅館が伸び悩んでいるのではないかと対策はどのように考えているか？
- A インバウンド対策の整備がどの程度できているか現状を確認して進めていきたい。

### (五十嵐委員)

- インバウンドの観光客は、団体が多い？個人が多い？
- A 個人が多い。
- 全国的にインバウンドの宿泊は、ゲストハウス、民泊など低料金型のものが急増している。武雄市の場合、既存旅館があるためやりにくいだろうが、競争・共存することも大切である。料金設定やサービスの在り方はいろいろな取組みができるはずである。インバウンドに期待をかけるならば、インバウンド客に選んでもらう宿泊施設の整備を戦略として取り組む必要があるのではないかと。既存の旅館もサービス検討すべき。

### (永松委員)

- 観光施設だけでなく、市内を周遊する時の表示、旅がしやすいような環境づくりが重要だと思うが、どのように考えているか？
- A 多文化共生の取組として外国人向け相談窓口を設置した。まずは、やさしい日本語や多言語表記につなげていきたい。

### (江口委員)

- インバウンド客については、自転車を活用している人が多い。自転車を増やしていくか、自転車に合わせたマップ作り、多言語表記も含めて観光協会でも取り組んでいきたい。
- 観光客数や消費額については、つかみにくいところだが、どのように算出されたのか？
- A 市内の観光施設や旅館等から聞き取りできたものを集計している。
- インバウンド対応を戦略としてとらえるためには、アンケート等で細かく把握する必要があると思う。
- 就労支援について、今後考えられる傾向かと思うが、介護をしながら仕事をする人が増えていくと思う。若い人のための支援、障害のある人の支援のほかにも、今仕事をしている人がいかに仕事を続けていけるかという就労支援を進めていく必要がある。

### (永松委員)

- 母親の就労も高まっている中、放課後児童クラブ保護者満足度が上がっている。親目線での環境整備は整ってきている。今後は、放課後児童クラブなどの子供たちの放課後の過ごし方の質についても考えていくべきと思うが、どのように考えているか？
- A 放課後児童クラブだけでなく公民館の活用など、家庭に限らず地域の協力も得て進めていく必要があると考えている。
- 放課後の生活が、学校の延長になってしまっており、ゆとりが無いように見える。放課後児童クラブをやめたいという声もある。一息つきたいという気持ちがあるのではないか。今後そういった部分についても目を向けていってほしい。

### (庭木委員)

- 放課後児童クラブは、人数が多くて過密化している。
- 子どもたちの検診率が増えて発達障害の早期発見につながっている。  
しかし、検診時間が、小さい子供の昼寝の時間と重なる。その場合、普段できることができないため、多動ではないかなどと疑われる、という相談が2件続いた。
- 母親が育休を取った場合、その間保育園に預けられない。育休が終わった時には保育園がいっぱいで入れず、続けて休暇を取るか退職するかになってしまう。
- 結婚の形が複雑化してきた。離婚後の育児についてもいろいろな考えの親が出てきた。  
そのような状況も考慮して子育て環境を整備していかなければならない。
- 高齢者の買物はバスで何とかなる。今後、将来的には超高齢者のゴミ出し難民が出てくる。
- 80歳の親が50歳の子を養っている。子が働かない、働かせてくれという相談がでている。就業支援の対象として考えていただきたい。

### (五十嵐委員)

- 観光消費額データは確実に収集する必要がある。  
インバウンド対応として、どれだけキャッシュレス化が進んでいるか。また、SNS で発信している場所など観光客がどう動き、どう消費しているかをビッグデータとして収集する時代である。無料 wifi スポットなどのインフラ整備も必要。
- 高齢者の生きがい（自助）については、強調しているが、互助、助けあいについて、今の計画では触れていない。超高齢化社会を前提にした場合、助け合う、協働のまちづくりは今後不可欠な要素である。次期の計画へ是非盛り込んでほしい。
- 次期計画には Society5.0 を意識して IT 等の視点を入れていく必要がある。

### (小杉委員)

- 家庭児童相談件数増えている。不登校解消につながったとあるが、具体的な数値データとして把握しているか。  
A 数日間休んだ児童の数を集計しており、減少したことが実績として出ている。
- バス・タクシー券の交付について、単発で終わるのか？毎年なのか？  
効果があったのであれば、引き続き取組むべき。予算の関係もあると思うが、サービスを平等に享受できるような取組みをお願いしたい。  
A バス・タクシー券は平成 30 年度のみ取組みである。  
今後の対応としては、利用者のニーズに合った、持続可能な形の交通対策が必要と考えている。  
利便性向上にむけ、効果的、効率的な交通網の整備に取り組んでいく。
- 駅前に「西九州のハブ都市」の横断幕が設置されており、すごく目立っている。  
市で設置したものか？  
A 武雄市シティプロモーション室で設置したもの。
- 市内の方に対しても観光客に対しても、こういった目に見える形で発信することはすごく大切。  
今後も目立つような形でどんどん PR をしてほしい。

### (嶺井委員)

- 求人数は伸びている、最新のデータで 8,230 人となっている。  
人材育成の部分が抜け落ちているのではないかと思われる。次期の計画では盛り込んでほしい。  
また、高校生の 3 分の 1 は戻ってこないというデータが出ている。戻って仕事に就けるような魅力ある企業、市内企業の育成も目標として盛り込むことができればと思う。

**【武富委員】 ※別途メールによる質問事項**

**【No. ①基本目標：仕事を創出し、所得を上げる】**

3. 就労支援③佐賀県内就職率について

○目標値 32.9% (H26 年度) の 10%以上向上に対し、30 年度 35.5%は、目標達成には厳しい状況。

特記事項にあるように、就労支援について、民間企業との一層の関係強化等々について、具体的な方策をぜひ検討して実行してほしい。

A 武雄市地域雇用創造協議会（武雄市観光協会、武雄商工会議所、武雄市商工会、JA 杵藤エリア、武雄市）の中で十分に協議してまいりたい。引き続き合同求人説明会などの開催を予定している。

**【No. ②基本目標：最高の子育て・教育環境をつくる】**

2. 子育て・家庭支援②家庭児童相談件数について

○目標値 360 件に対して、30 年度実績 405 件で大幅に目標を達成している。相談件数については今後も増えることが予想されるので、家庭児童相談員 2 名のままで対応が可能なのか？また、家庭児童相談員の処遇についても妥当なのか、検証をお願いしたい。

A 2022 年度までに全国の市町村に「子ども家庭総合支援拠点」を設置する方針が示されている。武雄市の児童数に対する支援員（相談員）人員配置基準は、常勤 1 名、非常勤 1 名と示されている。相談員の処遇については、県内他市の状況と比較しても、さほど変わりなく妥当と判断している。今後も人員含め現状を注視しながら体制整備に取り組んでいきたい。

5. 生活困窮者自立支援対応件数について

○武雄市の生活困窮者自立支援事業については、武雄市社会福祉協議会が担っており、HP を見ると支援の柱は「自立支援相談業務」と「家計改善業務」となっている。特記事項に「就労準備支援により更なる自立支援を行う」とあるが、現在、就労準備支援業務を行っているのか？行っているのであれば更なる充実を、行っていないのであればぜひ実施してほしい。

A 就労準備支援業務は昨年度までは行っていない。今年度から新たに取り組むものである。

**【No. ④基本目標：来てもらう・住んでもらうまちをつくる】**

○今回の総合戦略の指標にはないが、今年 4 月から改正入管法が施行された。全国的に外国人労働者が増えるのは必須であり、武雄市においても外国人の定住化・定着化が進む可能性もある。静岡県浜松市では、外国人の定住者を地域の資源として、ともにまちづくりを進めるなどの取り組みを行っている。武雄市としても、外国人労働者施策についてしっかり協議して取り組んでほしい。

A 多文化共生の取組として、市役所内に外国人向け相談窓口を設置した。

まずは、やさしい日本語や多言語表記の取組等につなげていきたい。

在日外国人、外国人労働者、外国人観光客に対して、災害時の対策も含め、全ての外国人が

安心して住めるようにどのようなサポートができるのか考えていきたい。

【No. ⑤基本目標ほどよい田舎で楽しく暮らす環境をつくる】

2. 地域づくり支援①CSO 提案型協働創出事業について

○30 年度実績値が提案数 0 件、実施数 0 件となっているが、事業概要及び効果の欄には、がんばる地域応援事業や人づくりまちづくり事業の件数が記入されている。ここの説明をお願いしたい。

A CSO からの提案が出ていないのが実状である。(県事業)

武雄市独自事業として上記 2 事業に取り組んでおり、その実績を紹介したもの。

まちづくり協議会、青少年育成町民会議やたけおワールドフレンズなどにより国内・国際交流活動等の取組みがある。

3. 地域の交通確保①循環バスの乗客数について

○高齢者を対象にバス・タクシー券を交付したところ、利用者の約 95%はタクシー利用と書かれている→循環バスがいかに利用しにくいかを表している。交通弱者や利用者を交えた協議の場を設け、本当にニーズに対応できる循環バスなどの交通網の見直しが必要である。

A 今年度、地域交通対策室を立ち上げた。利用者のニーズ調査等を行い、武雄市地域公共交通網形成計画の策定を予定している。市全体的な交通網の見直しに取り組んでいきたい。

(3) 第 2 期武雄市総合戦略の策定スケジュールについて

6 月 国の第 2 期総合戦略基本方針の閣議決定

7 月 佐賀県総合計画策定予定(総合戦略統合)

12 月 国の第 2 期総合戦略の閣議決定

各自治体の総合戦略については、計画期間に切れ目のないよう、国・県の総合戦略を勘案して策定するように要請されている。

上記の国・県の動向を注視ながら、今年度の策定を目指す。

武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会については、あと 1～2 回程度の開催を予定。

(4) その他

特になし

4 閉会

□事業効果検証シート／総合戦略で設定した重要業績評価指標(KPI)＊検証結果＊

NO. ①	基本目標	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	29年度	達成率 (%)
	仕事を創出し、所得を上げる	新規求人数	5,488人	5,800人	6,289人	108%

施策	重要業績評価指標(KPI)			実績値		事業概要及び効果
	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)	
1 企業誘致	① 企業誘致数	1社	5社 (H27-H31)	延4社 (H30_2社)	80%	2社の企業誘致に成功した。(オンワード樺山、近藤製作所) 雇用の場の創出及び産業振興につながった。
2 地域経済活性化	① 創業支援相談件数	25件	50件	52件	104%	創業相談窓口の設置や創業塾の開講により、事業所の新規創業による 地域活性化及び雇用の創出につながった。 (小売業、飲食業など) H27_3件、H28_3件、H29_2件 合計12件
	② 創業件数	3件	15件	4件	27%	
3 就労支援	① 市の協議会・審議会に占める女性の割合	34%	40%	33.3%	83%	啓発イベント等の開催により、男女共同参画への意識醸成を図った。
	② 障がい者の雇用者数	474人	500人	693人	138%	事業者向け説明会等の開催により、福祉的就労サービスを提供する事業所の増加や一般事業所の意識醸成につながった。
	③ 佐賀県内就職率	32.9%	10%以上 向上	35.5% (H29実績)	82%	さがを創る大交流会への参画及び市内企業への参加呼びかけを行った。 ハローワーク武雄との共催による合同求人説明会の開催。
4 魅力ある農林業の振興	① 青年等就農計画数	2人	3人	1人	33%	就農相談会や農業研修会を実施(チンゲンサイ)。 きゅうりトレーニングファーム3期生の募集。 (朝日町男性1、北方町男性1、大町町女性1、江北町男性1)

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創業相談窓口訪問者や創業希望者へのフォローアップ及び支援の周知を行う。</li> <li>・工業団地整備事業に着手しており、2021年度分譲開始予定。(現況、市として売却できる土地がない。また、民有地も少ない)</li> <li>・就労支援について、民間企業との一層の関係強化やインターンシップ受入れ企業・団体等の量的拡大方法について検討。</li> <li>・各事業等の周知について、市広報だけでなくマスコミ等の活用を強化する。</li> <li>・就農支援のワンストップ化、米政策、大豆のブランド化等を推進。</li> </ul>
------	---

<p>【懇話会の評価及び意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護をしながら仕事をする人が増えてくると思われる。今仕事をしている人が、いかに仕事を続けていけるかという就労支援が必要となってくる。</li> <li>・80歳の親が50歳の子を養っている。子が働かない、働かせてくれという相談が出ている。就労支援の対象として考えていただきたい。</li> <li>・新規求人数は伸びている。人材育成の取組が重要である。</li> <li>・また、外に出た人が戻って仕事に就けるような、魅力ある企業育成が必要である。</li> <li>・相談件数は増えているが、創業につながっていない。原因の分析が必要である。</li> </ul>
--

□事業効果検証シート／総合戦略で設定した重要業績評価指標(KPI) \* 検証結果 \*

NO.	基本目標	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)
NO. ②	最高の子育て・教育環境をつくる	合計特殊出生率	1.70人	1.80人		

市町毎の調査が5年に1回

※合計特殊出生率参考データ  
佐賀県H26\_1.63⇒H29\_1.64  
全国 H26\_1.42⇒H29\_1.43

施策	重要業績評価指標(KPI)			実績値		事業概要及び効果
	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)	
1 武雄市図書館を中心とした都市魅力アップ	① 武雄市図書館来館者数	80万人	80万人	107万人	134%	こども図書館開館に伴い、利用者が大幅に増加した。親子だけでなく、世代を超えた交流の場として利用いただいている。
2 子育て・家庭支援	① 1歳6カ月検診の未受診率	4.6%	0%	1.95%	57%	受診勧奨により、健やかな発達を支援し、発達障害等の早期発見と療育への支援を行う。
	② 家庭児童相談件数	358件	360件	405件	112%	家庭児童相談員2名による家庭訪問等の積極的な活動及び学校との連携により不登校等の解消につながった。
	③ 病児保育利用者数	24人	456人	295人	64%	病児・病後児保育施設テトテ(武雄こども園敷地内)の開設(H30.4月)により、保護者の子育て・就労の両立支援につながった。
	④ 放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	82.6%	90%	97%	107%	放課後及び長期休業中における、こどもの居場所づくり。発達段階に応じて子供の主体性を尊重した育成支援を行った。
3 教育環境整備	① 子どもの学習意欲向上度	85%	90%	89%	99%	スマイル学習(武雄式反転授業)、花まるタイム(官民一体型学校)、ICT推進員の配置(16名)等に取組んだ。

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の活用を図り、こどもの好奇心を引き出し、世代間交流等の促進を図る。</li> <li>・教育部門との連携を図り、発達障がい児等の支援を強化することで、子どもの全般的な発達及び保護者の心理的負担をサポートする。</li> <li>・デジタル教科書の活用やICT教育の充実を図る。</li> </ul>
------	---

<p>【懇話会の評価及び意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の子供たちの生活が、学校の延長になってしまっており、ゆとりが無いように見える。放課後児童クラブをやめたいという声もある。今後、子どもたちの放課後の過ごし方の質についても目を向けてほしい。</li> <li>・子どもたちの検診率が増えて発達障がいの早期発見につながっている。</li> <li>・一方、検診時間が子どもの昼寝時間と重なっており、普段できることができず、多動などと疑われるという相談があっている。</li> <li>・育休が終わった時に保育園がいっぱいで入園できず、続けて休暇をとるか、退職するかになってしまう。</li> <li>・結婚の形が複雑化してきており、離婚後の育児についてもいろいろな考えの親が出てきた。様々な状況を考慮して子育て環境の整備が必要。</li> </ul>
--

□事業効果検証シート／総合戦略で設定した重要業績評価指標(KPI) \* 検証結果 \*

NO.	基本目標	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)
NO. ③	生きがいと健康を実感できるまちをつくる	健康寿命	男性78.45歳 女性83.12歳	1歳延伸	男性79.12歳 女性83.73歳	男性67% 女性61%

施策	重要業績評価指標(KPI)			実績値		事業概要及び効果
	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)	
1 生きがいづくり推進	① 青年向け講座	H27より実施	40人	21人	52%	中央公民館講座(太極拳)を実施した。
	② 高齢者大学参加者数	155人	195人	140人	71%	武雄市民大学の開設により、高齢者の生きがいづくりにつながった。
2 健康増進	① 国保の特定検診率	36.7%	50%	50.5%	101%	検診受診者に対し保健指導を行い、重症化予防、健康への意識向上を図った。医療機関(主治医)との連携(7件)。
	② 週3回以上朝食を抜く人の数	6.7%	1.7%	7.4%	0%	検診結果から食生活改善に向けた保健指導の実施。食生活改善推進協議会の伝達活動の実施。
3 介護・高齢者福祉	① 認知症サポーター登録者数	2,831人	6,900人	5,918人	85%	中学2年生を対象とした認知症サポーター養成講座により、早い時期から認知症のことを正しく知ってもらい、安心して暮らせる優しいまちづくりを推進した。
4 障がい福祉	① 障がい者(児)が自立した生活をするためのサービス利用者数	575人	690人	717人	103%	在宅ヘルパーやグループホームの利用促進。就労支援により福祉的就労につながった。
5 生活環境改善	① 生活困窮者自立支援対応件数	H27より実施	240人	105人	43%	自立相談業務や家計改善業務により、様々な不安を解消しながら就労に向けた支援を行った。(延510人)

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベジファーストの啓発により糖尿病対策に取り組む。</li> <li>・若者の参加促進のため講座内容や広報活動の見直しを検討。</li> <li>・高齢者大学について、諸事情で退学される方へのサポートが必要。</li> <li>・認知症サポーター制度の周知及び登録サポーターの有効活用を推進する。</li> <li>・自立相談、家計改善に加え、就労準備支援により更なる自立支援を行う。</li> </ul>
------	--

<p>【懇話会の評価及び意見】</p> <p>・高齢者の生きがい(自助)については、強調しているが、互助、助けあいについては弱い。超高齢化社会を前提として、協働のまちづくりは今後不可欠な要素である。</p>
---

□事業効果検証シート／総合戦略で設定した重要業績評価指標(KPI) \* 検証結果 \*

NO.	基本目標	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)
NO. ④	来てもらう・住んでもらうまちをつくる	交流人口	180万人	200万人	185万人	92%

施策	重要業績評価指標(KPI)			実績値		事業概要及び効果
	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)	
1 国内・海外誘客	① 観光消費額	110億円	125億円	113億円	90%	まちあるき事業、体験型ツーリズム事業、楼門朝市や各種イベント等の実施及び旅行会社等への営業活動の積み重ねにより、観光資源をはじめ各種助成事業の浸透が図られ、観光客の誘客につながった。
	② 外国人観光客数	2,671人	10,000人	23,543人	235%	
2 UIJターン・教育移住推進	① 周辺部地域への移住者数	14世帯	20世帯	19世帯	95%	定住支援金事業、定住特区補助金事業の実施により、移住実績につながっている。
3 スポーツ大会等誘致	① スポーツ大会の宿泊者助成数	1,614人	1,800人	2,147人	119%	武雄市観光客誘致対策補助金事業により、研修会、スポーツ大会、合宿等の開催に係る、宿泊者誘客につながっている。

※定住支援金：転入かつ住宅取得者に対し支援金を交付。  
 ※定住特区補助金：定住特区への転入者に対し、住宅新築補助金、中古住宅棟改修補助金、定住奨励金を交付。  
 ※観光客誘致対策補助金：大会等の開催に伴い市内で延べ30泊以上の宿泊等に対し補助金を交付。

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や企業、団体等を巻き込み「西九州のハブ都市」の推進に取り組むことで経済活性化を図る。</li> <li>・文化観光、ナイトタイムエコノミー、駅周辺整備の推進。</li> <li>・地方創生推進交付金を活用した、UIJターンによる移住、就業等への支援。</li> <li>・スポーツを通じて、様々な人と人とのつながりを促進する。</li> <li>・オリパラ、国スポ等をきっかけとした、ライフスタイルへのスポーツの定着を図る。</li> </ul>
------	---

<p>【懇話会の評価及び意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にインバウンドの宿泊は、ゲストハウス、民泊など低料金型のものが急増している。</li> <li>・料金設定やサービスの在り方は、いろいろな取組みができるはずである。既存旅館があるためやりにくいだろうが、競争・共存することも大切である。</li> <li>・インバウンドに期待するならば、インバウンド客に選んでもらう宿泊施設の整備を戦略として取り組む必要があるのではないかと。</li> <li>・既存旅館もサービス内容を検討すべきである。</li> <li>・観光客数や消費額については細かく把握する必要がある。(アンケートなど)</li> <li>・目に見える形での情報発信、PRはすごく大切。今後目立つような形でのPRをどんどん行ってほしい。</li> <li>・ビジネスホテルの稼働は好調であるが、旅館は伸び悩んでいる。</li> <li>・観光施設だけでなく、市内を周遊するときの表示、旅がしやすいような環境づくりが重要である。</li> <li>・全国的に外国人労働者が増えるのは必須である。外国人の定住者を資源として、ともにまちづくりを進める取組が必要である。</li> </ul>
--

□事業効果検証シート／総合戦略で設定した重要業績評価指標(KPI) \* 検証結果 \*

NO.	基本目標	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)
NO. ⑤	基本目標	ほどよい田舎で楽しく暮らす環境をつくる				
		人口の社会増減数	▲216人	▲108人	28人	225%

施策	重要業績評価指標(KPI)			実績値		事業概要及び効果
	指標	基準値 (26年度)	目標値 (31年度)	30年度	達成率 (%)	
1 定住環境整備	① 超高速通信網のエリアカバー率	55.6%	100%	93.83%	93%	CATV事業者との意見交換・要望活動により、周辺地域も含めた超高速通信利用環境の充実が図れた。
2 地域づくり支援	① CSO提案型協働創出事業	提案数8件 実施数0件	提案数12件 実施数8件	提案数0件 実施数0件	0%	がんばる地域応援事業(新規1件、継続2件)、人づくりまちづくり事業(国内交流3件、国際交流2件、文化3件)の活用により市民活動等を支援。
3 地域の交通確保	① 循環バスの乗客数	19,705人	21,000人	16,946人	80%	高齢者を対象にバス・タクシー券を交付した。利用者の約95%はタクシー利用。 人口減少及び自家用車の普及により利用者は年々減少傾向にある。
4 武雄版里山ビジネスモデルの確立	① 特産品化数	H27より実施	7品目 (H27-H31)	延7品目 (H30_2品目)	100%	地域資源を活用し、商品化につながっている。

※がんばる地域応援事業:市民協働による地域づくりを実施する団体に対し補助金を交付。  
 ※人づくりまちづくり事業:交流会、研修会、大会等への参加に係る宿泊費等に対し補助金を交付。

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信エリアについて、市民ニーズが低い地域に対する整備手法の整理(補助制度等の考え方)が必要。</li> <li>・CSO提案型協働創出事業(県主催)の活用には至っていないが、市民活動等は行われており、継続して支援していく。</li> <li>・地域や利用者のニーズに応じた市全体的な公共交通網の見直しが必要。</li> </ul>
------	---

<p>【懇話会の評価及び意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、将来的に超高齢者のごみ出し難民が出てくる。</li> <li>・公共交通について、免許返納が進むことでニーズはあるはずで、これからも増えていくはずである。利便性の向上などニーズに合った見直し等対策が必要。</li> </ul>
--